

みんなとともに笑顔いっぱい - 「101」新たなるステージへ -



# みんなとともに



2学期になり、転入児童が4名になりました。新しい友だちを迎える学級の子どもたちは、やはりウキウキしているようです。さて、本校の各学年の児童数は、1学級分（担任1名）になるか、2学級分（担任2名）になるかというギリギリのところまで推移しています。願わくば、清明小学校の評判が高まって、他校から本校学区に引っ越してくれる家族はいないかなあ、と心の中で思っています。



## 「本校の特別支援教育」 - 子どもの特性に応じた教育を -

平成30年度「学校だより 第25号」（2018.10.25）で、「福島市の特別支援教育」について触れたことがあります。今回は「本校の特別支援教育」について整理してみました。

### ◇ 「わかば学級」について

本校にある特別支援学級は、「知的障がい」の特別支援学級になります。現在2名の子どもが学んでいます。担任は、特別支援教育の免許を持ち専門的見識のある関口教諭が担っています。

この学級の指導の特徴は、「領域・教科を合わせた指導」があることで、教科の指導のほか、「日常生活学習」「生活単元学習」など生活に密接に結び付いた学習があります。「生活単元学習」で作成した作品を「福祉作品展」や「合同作品展」に出品しており、「福祉作品展」では2年続けて賞をいただきました。

交流先の学級には机とイスが常時あり、技能教科を中心に積極的に「交流」を行っています。

### 【「わかば学級」】児童の変遷

年度	H1	H5	H10	H15	H20	H25	R2
人数	5名	4名	2名	11名	11名	7名	2名
学級	1学級	1学級	1学級	2学級	2学級	1学級	1学級

・特別支援教育において、周辺地域の中核的役割を果たしてきましたが、近年は各校に特別支援学級が設置されるようになり、児童数が減少しています。

### ◇ 「通級指導教室」への通級について

通常は所属する学校・学級で学びながら、その子の特性に応じた教育を受け場として、「通級指導教室」があります。週に1時間程度学びますが、担当との1対1、2対2などの個別指導が中心なので、とても効果が出ています。本校の子どもは、福島一小や福島四小へ通級しています。

### ◇ 「特別支援教育協力員」について

特別な支援の必要な子どもたちをサポートするため、本校には「特別支援教育協力員」が1名配置になっています。主に、1年教室に入っていますが、必要に応じ、他学年の支援にも入ります。

※ 特別な支援の必要な子どもたちへの指導にあたっては、「個別の指導計画」を作成しています。また、「個別の教育支援計画」については保護者の方と情報を共有し、同一歩調で指導を進めていきます。

### 【校長のつぶやき】 その52 「ささやかな実験」

いつもの年は土日の度に何か用事があったのだが、今年度はほぼ何もなし。そこで、妻の実家に行くことが多くなった。とても自然が豊かで、道路脇にサルカ群れていたり、イノシシが鼻で土を掘り起こした跡があったりする（ついでに大量の〇〇〇も）。クマもいるので、外作業をするときは内心ドキドキしている。

さて、一本の「柿」の木が敷地内にある。毎年たくさんの実をつけるのだが、最近では誰も取る人はいない。ふと自分が取ってみようかと思ったが、問題は「渋柿」であることである。取りあえず、手の届く範囲の柿を取ってみた。

家に持ち帰って、試して「渋抜き」の作業をしてみた。高濃度の焼酎に浸した後、段ボールに入れて封をしておいた。2週間経ったところ不安の中で食べてみると、渋柿は甘くなっていた。実験は大成功である。

「焼酎」の力で、「渋柿→（焼酎）→甘柿」となった。悲しいサガで、何か「子育て」の話に例えられないかとも思ったが、今回は皆さんにお任せすることにした。

この前、「スイセン（20球）」と「チューリップ（100球）」の球根を庭に植えておいた。まもなく雪の下に埋もれてしまうが、雪解け後にはきれいな花を咲かせることだろう。今から楽しみである。